

発行 令和7年9月
発行者 戸塚区役所区政推進課
〒244-0003
横浜市戸塚区戸塚町16-17
TEL: 045-866-8326
編集 株式会社山手総合計画研究所
デザイン 下町編集室 OKASHI



戸塚のシンボルマーク
「と」の文字が空を舞う鳥の姿で
表現されています。
1988(昭和63)年に決まりました。



戸塚区の歴史

地域を知ろう！

歴史を知ろう！

とつか れきし
戸塚の歴史
まるわかり
BOOK





「戸塚」ってどんなところ？

● ● ● 現在では、28 万人以上の人々が住む横浜市戸塚区。
地域にはどんな歴史があるのかな？

戸塚が今の姿になるまでには、様々な歴史がありました。
この冊子が地域で積み重ねてきた歴史を知る
きっかけになればうれしいな！



少年探偵 「かつと」くん

ぼくは自分の住んでいる戸塚が大好き！
時間をさかのぼって戸塚の歴史を調べる
ことにはまっているよ。
知れば知るほど戸塚のことが好きになる
んだ。ぼくと一緒に「へえ～！」と思う
ような戸塚の歴史を探してみよう！



戸塚区のマスコット 「ウナシー」

好きな食べ物：浜なし



ウナシーのこと
もっと知りたい！

目次

1～2	戸塚の歴史の探し方	7～12	身近な地域の歴史発見マップ
3～6	戸塚の今昔物語 戸塚のなりたちを知る	13～24	大調査！〇〇× 歴史
		25～30	ちょっと昔の戸塚のおはなし

戸塚の歴史の探し方

歩いて探してみよう！

住んでる地域にはどんな歴史があるの
かな？歩きながら探してみよう。



話を聞いてみよう！

戸塚の歴史を身近な人や地域の人に
聞いてみましょう！この冊子でも、
地域の方々のお話を紹介しています。



戸塚区
身近な地域の歴史を聴く

本やインターネットで見てもみよう！

図書館には、様々な地域の歴史の資料がそろっています。最近では、インターネットでも
「オープンデータ」といって、いろいろな情報・資料が公開されています。



戸塚区
とつかフォトコレクション

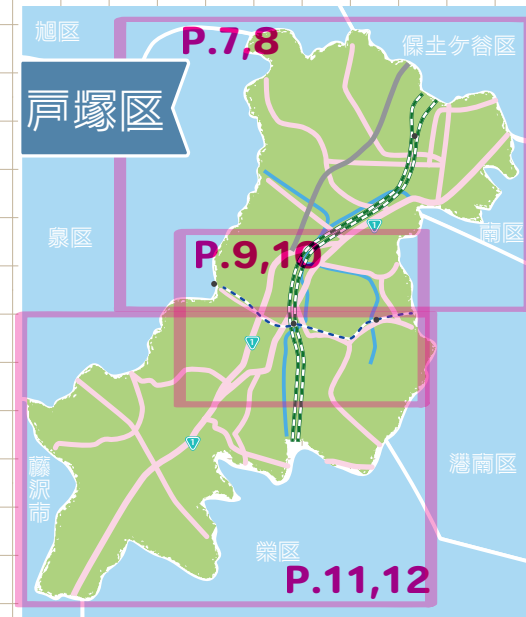


横浜市立図書館 デジタルアーカイブ
都市横浜の記憶

学んだことを周りに話してみよう！

「へえ～」「そうなんだ！」と感ずることもしばしばあるはず！

学んだことを多くの人に伝えることで、自分の知識もアップデートしましょう。



P. 7～12 「身近な地域の歴史発見マップ」

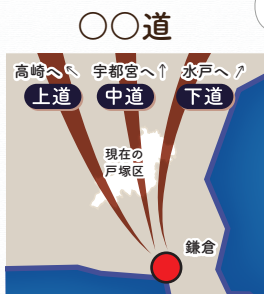


戸塚の今昔物語

戸塚のなりたちを知る

戸塚のできごと

鎌倉につながる道のことを
何というかな？



いざ、鎌倉！

幕府が置かれた鎌倉にむけて道が
集まっています。今でも歩けるよ！

詳しくは 19 ページへ

鎌倉・室町・安土桃山時代

江戸時代 1603-1867

明治 1868-1912

社会・横浜のできごと

「宿駅伝馬制度」とは？

街道沿いに「宿場」という拠点を
つくり、その宿場から宿場へ
リレーのように荷物などを運ぶ
仕組みのことです。

1601 慶長 6 徳川家康が東海道の
宿駅伝馬制度を定める

戸塚を歩いて江戸
と京都を結ぶ道を何と
いうかな？

〇〇道



詳しくは 13 ページへ

明治時代になると鎌倉郡
になりました。今の戸塚
消防署のところに鎌倉郡
戸塚町役場がありました。



1960 年代の戸塚区役所

とつかフォトコレクション

1833 天保 4 頃
初代広重が東海道五十三次の
戸塚の浮世絵を制作



横浜市中央図書館所蔵

1856 安政 3 柏尾川に桜植樹

1873 明治 6 富塚学舎（現戸塚小）開校

1878 明治 11 鎌倉郡戸塚町役場設置

1887 明治 20 戸塚駅開業（東海道線開通）

1859 安政 6 横浜開港

1868 明治 元 明治政府成立

1872 明治 5 宿駅伝馬制度廃止

1877 明治 10 新橋～横浜間に鉄道開通

1889 明治 22 「横浜市」誕生

1939(昭和14)年 鎌倉郡から横浜市に編入

郡というのは昔の行政区の名称です。鎌倉郡戸塚町から横浜市に組み込まれて「戸塚区」が誕生しました。



戸塚駅周辺は50年以上かけて現在の姿になったんだね！



今の瀬谷区、泉区、栄区も「戸塚区」だったんだよ。今の戸塚区の面積の約2.5倍もあったんだって！



身近な地域の歴史

発見マップ

凡例：区内の様々な古道

— 東海道
— 鎌倉道
— 大山道

戸塚区には昔から使われてきた道が残っているよ。

【東海道】江戸時代、江戸（現在の東京）と京都を結ぶために作られた街道です。⇒P13

【鎌倉道】鎌倉時代、幕府が置かれた鎌倉と各地を結ぶために使われた道のことです。⇒P19

2 かもめ橋

戸塚区は昔からの工場がたくさんあります。橋の名前の由来は、近所にある「かもめプロペラ」です。



1976年のプロペラ工場の様子▲

3 上矢部町富士山古墳

出土した埴輪は横浜市歴史博物館（都筑区）で見ることができます。



横浜市歴史博物館蔵

4 踊場駅

真夜中に手ぬぐいを被った猫たちが踊っていたという伝説が「踊場」の由来です。駅に猫のデザインがたくさんあります。



踊場駅の猫の照明

4

踊場駅

1 東戸塚駅周辺のまちづくり

1980（昭和55）年、地域の人の強い要望で駅ができました。



1973年
1987年
東戸塚の変化
とつがフォトコレクション

5 清水谷戸トンネル

明治時代に作られた現役としては一番古い鉄道トンネルです。



とつがフォトコレクション

6



東海名所改正道中記 六境木の立場 広重（三代）

境木立場

「立場」とは街道沿いにある休憩場所のことです。宿場から遠いところや難所に茶屋などが設けられました。

6 境木地蔵の伝承

むかし、鎌倉の腰越の海岸に地蔵が流れ着いたそうです。夢で地蔵から「江戸の方に行きたい」と告げられた漁師は地蔵を江戸まで運ぼうとしますが途中の境木で動かなくなってしまい、ここに安置することになりました。



7 焼餅坂

焼餅で有名な茶屋があったため「焼餅坂」という名前になったと言われています。



横浜市中央図書館蔵

▲東海道五拾三駅 六戸塚 焼餅坂 立祥（二代広重）

江戸時代

8 東海道から分岐する「柏尾通り大山道」を利用して大山参りに行く人もたくさんいました。



大山前不動と大山道道標
とつがフォトコレクション

歴史サインを探してみよう！
東海道沿いに設置しているよ。

1 戸塚駅西口の発展

現在のＪＲ戸塚駅の乗車客数は１日平均約１０万人で、ＪＲ線内では市内２位です。開業当初は西口しかありませんでした。



横浜市中央図書館所蔵



横浜市史料室所蔵資料

▲明治・大正の頃の戸塚駅西口の様子 ▲戸塚駅西口の様子(1964年)



戸塚駅と区役所をつなぐ地下通路には、戸塚を描いた浮世絵などのパネルが展示されています。



2



江戸方見付跡

「戸塚宿」の江戸に近い方の入口でした。

3



江戸時代の浮世絵に「左りかまくら道」と彫られている石碑が！
今もあるのかな？⇒P19



2

踏切がないのに線路にかかる歩行者の通路に「大踏切デッキ」という名前がついているよ。なぜだろう？⇒P26



5 富塚八幡宮



横浜市中央図書館所蔵

「富塚」は戸塚の名前の由来の１つと言われています。

4

戸塚駅東口の発展

戸塚図書館

戸塚小学校

柏尾川

戸塚駅の東口も西口も今の駅と全然違うね！



3



提供：坂本写真

昭和初期には競馬場がありにぎわいました。

4 戸塚駅東口の発展



▲昭和30年代の戸塚駅東口

1937（昭和12）年、戸塚競馬場の観客のために東口ができました。

6 上方見付跡



凡例：区内の様々な古道

— 東海道
— 鎌倉道

7



横浜市中央図書館所蔵

柏尾川の桜並木は、昭和初期からの桜の名所です。



浮世絵風の箱根駅伝が描かれたマンホールがあるよ。さがしてみよう！



1 ゆうえんち 遊園地「ドリームランド」 があった侯野のうつりかわり



◀現在の
侯野公園

4 このソラマメみたいな
形の通り道はなんだろ
う？今も道の形が残っ
ているね！⇒P28



戸塚中学校
東戸塚小学校
戸塚図書館
戸塚小学校

5 おおふみきり だいじゅうたい
大踏切の大渋滞にしばれを
切らした当時の吉田茂首相
が作らせたといわれる道は
「ワンマン道路」と呼ばれ
ています。⇒P26



6 現在の箱根駅伝は ←---→
を通過していますが、以前は
大踏切で線路を渡っていま
した。 当時の箱根駅伝の様子▶



7 まいおかこうえん
舞岡公園
明治ごろの農村の
暮らしと風景が
残されています。



昔の農家の住まい(旧金子家住宅主屋)▲

4 まさかりが淵の伝説
むかし、近くに住む木こりが滝つぼに
まさかりを落とししてしまいました。
そのまさかりが、この滝に住んでいた
魔物に当たり、お姫様を助けたという
伝説があります。

6 巨大なわらじがあるぞ！
誰が何のために作って
いるのかな？⇒P20

2 かげとりいけ てっぽうしゆく むかしばなし
影取池と鉄砲宿の昔話
むかし、大食いの大蛇は飼い主に迷惑をかけないように
家を出て池に住みつき、人の影を食べて飢えをしのいで
いました。その池の名が「影取」という地名になったと
いわれています。大蛇を鉄砲で倒した猟師が住んでいた
場所は鉄砲宿という名になったといわれています。



凡例：区内の様々な古道
— 東海道
— 鎌倉道

背景地図：横浜市地形図複製承認番号 令6建都計第9017号

1 大調査！ 東海道 × 歴史 江戸時代に宿場として栄えた戸塚宿

江戸時代、徳川家康の命によって江戸（東京・日本橋）から京都（三条大橋）を結ぶ「東海道」が整備されました。東海道には、53の「宿場」と呼ばれる街道の拠点がつくられたので、「東海道五十三次」と言われています。宿場の最も大切な役割は、幕府の仕事で遠くへ行く人のために人と馬を用意したり、宿場から宿場へリレーのように荷物を運んだりすることでした。

※大坂までの4つの宿場を加えて、「五十七次」と言われることもあります。

■宿場ってなんだろう？

戸塚宿は江戸日本橋から数えて5番目の宿場です。江戸から10里半（約42km）の場所にあったので、朝に江戸を出発した旅人の最初の宿泊地としてにぎわいました。

江戸から京都までは約492km！

当時の人は2週間くらいかけて歩いたらしいよ！

1日平均約35kmも歩いていたんだね。

旧東海道戸塚宿の歴史を歩く散策マップ▶



見付 宿場の入口を示す見張り場所。江戸に近い方は「江戸方見付」、京都に近い方は「上方見付」と呼びました。

本陣 参勤交代の大名や天皇のお使い（勅使）など身分の高い人の宿泊場所。戸塚宿には本陣が2つありました。

一里塚 街道の一里（約4km）ごとにあり、距離の目安となるほか、木陰で休むこともできました。

一般の旅人は本陣ではなく、宿場の中の旅籠などに泊まっていたよ。

当時の旅人はこんな格好で旅をしていたんだね。

旅の荷物を持ち運ぶための「ふりわけ荷物」

日よけや雨よけになる「すげがさ」

わらでつくられたむかしのはきもの「わらじ」

むかしのレインコート「道中合羽」

1840年頃には宿泊施設である旅籠が75軒もあって、五十三次の宿場の中で10番目に多かったらしいよ。

宿場

見付から見付にはさまれた範囲を「宿場」といいます

むかし おもかげ 昔の面影を探してみよう！ 江戸時代の東海道の面影はどこに残っている！？

江戸時代の様子がそのまま残っているところはあまり多くはありませんが、むかしの雰囲気を感じることができる場所があります。

品濃一里塚

江戸から9番目の一里塚で、神奈川県内では唯一ほぼ原型で残っており、県の指定史跡になっています。

旧東海道をはさんで道の両側に二つの塚があります。

こかげ
木陰で
ひとやすみ〜



▲周辺の開発が進む前の1977年の様子



▲小高い塚が残っている（2025年）

一里塚に榎が植えられているのは、家康が「ええ木にせい（良い木にしまさい）」と言ったのを聞き間違えたからなんだって！

江戸方見付跡

戸塚宿の江戸（東京）側には、「江戸方見付」がありました。宿場の役人は参勤交代の大名らをここで出迎えました。

大きな藩の大名行列は3000人ほどになることもあり、見付の前で隊列を整えてから宿場に入ってたんだって！



▲町内会によって造られ民家の一角にあった見付跡の石碑（昭和40年代）



▲1977年の様子



2025年▶

澤邊本陣跡

戸塚宿にあった2つの本陣のひとつで、100人が泊まれる広さだったと言われています。



▲昭和40年代の澤邊本陣跡



▲澤邊本陣跡（2025年）

大名だけではなく、徳川家康や第14代将軍家茂が泊まった記録も残っているらしいよ。



▲家茂が戸塚を訪れている様子と言われている浮世絵

富塚八幡宮

平安後期に創建された地域の中心となる神社です。「富塚」は「戸塚」の語源とも言われています。

宿場町として栄えた戸塚には多くの文化人も立ち寄りました。松尾芭蕉の句碑も、富塚八幡宮をはじめ区内3か所に建立されています。

神社の裏山には、前方後円墳があるんだって！



▲古絵葉書にもなっていた富塚八幡宮



▲2025年



「鎌倉をいきて出けむはつ松魚（かつお）」

▲芭蕉の句碑

上方見付跡

戸塚宿の京都側の出入口です。現在は道の両側に1.5mほどの石の囲いがあり昔と同じように京に向かって左に松の木、右に楓の木が植えられています。



「上方」ってなに？



出典：戸塚郷土誌（1934年発行）



天皇が住んでいた京都を「上方」といったんだよ。

昔の面影を探してみよう！ 浮世絵でみる戸塚の今と昔

1 大橋

柏尾川をわたる大橋周辺が題材です。この浮世絵は好評のため何度も増刷され、版木がすり減ってしまったため、構図を変更した再刻版もつくられました。



▲「東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道」初代広重▼

2つの絵で、違う
ところがたくさん
ありそうぞ！



当時は長さ約18m、
幅約5mの板橋だった
とされているよ。
現在の大橋の長さは
約50mなので、1/3
くらいの長さだった
んだね！



背景が見えなくなっている
背景の山の大きさが変わっている
屋根の傾きが
ゆるやかになっている

馬に乗ろうとしている

鎌倉道

東海道

▼現在の大橋（2025年）



浮世絵の位置

江戸時代までは国境があったんだね。

さがみのくに はんい
相模国の範囲
神奈川県の
横浜市（一部）
より西側



むさしのくに
武蔵国の範囲
埼玉県、東京都、
川崎市、
横浜市（一部）



2 境木立場

昔の武蔵国と相模国の境には、境界を示す
標柱が建てられ、「境木立場」と呼ばれました。
現在は復元された標柱が建っています。



境木立場は、西側に富士山、
東側に江戸湾が見える名所だ
ったんだって！



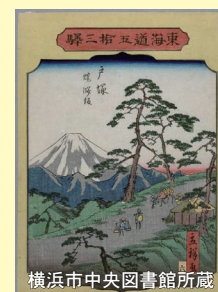
▲「東海道五拾三次之内 六 境木の立場」（三代）



▲復元された標柱

3 焼餅坂

浮世絵では、松並木が続く焼餅坂を
手前に、富士山を遠くに望む構図が採
られています。焼餅坂の名前は、坂の
そばに茶店があり、焼餅を売っていた
ことが由来といわれています。



▲「東海道五拾三次之内 六 焼餅坂」立祥（二代広重）



▲松並木が植えられている
焼餅坂（2025年）

茶屋で出す「牡丹餅」＝「焼餅」が
名物だったらしいよ！
今も雰囲気似ているね



4 八坂神社



▲浮世絵に残る八坂神社と高札場（国長）

▲2025年

通称「お天王さま」と呼び親しまれています。神社の横には、
「高札場」があり幕府や領主が定めた掟などを掲示していました。

戸塚の夏の伝統行事
「お札まき」（P.21）が
行われているよ。



2 大調査！鎌倉道 × 歴史 東海道より古い道！鎌倉道

1180年頃、鎌倉幕府が開かれると、鎌倉と関東各地の御家人の領地を結ぶ重要な道路として「鎌倉道」が発達しました。その後、旅人などが使う道の中にも「鎌倉道」と呼ばれるようになったものもあります。



横浜市中央図書館蔵

東海道を描いた浮世絵に「左りかまくら道」と記された道標が描かれています。近くの妙秀寺に浮世絵と同じような道標が残っています。

妙秀寺に残る道標▶



横浜市中央図書館蔵

▲広重の大橋（P.17）の浮世絵に描かれた道標

「戸塚」というタイトルの浮世絵の右奥に大仏が描かれているね。鎌倉の大仏かな？

江戸時代、庶民の間で寺社へのお参りが流行したんだよ。東海道の戸塚宿から鎌倉道（吉田道）をたどって、多くの人が鎌倉へお参りに行きたらしいよ。

鎌倉道を歩いてみたい！
それぞれの道を詳しく知りたい！
という方はこちら

戸塚の古道
鎌倉道の歴史を歩く
散策マップ▶



P.12



提供：南谷戸和楽路会

▲1974（昭和49）年



提供：南谷戸和楽路会

▲2024（令和6）年

たくさんの大人が大きなわらじを
運んでいるよ！これは何だろう？

吉田道沿いには「南谷戸の大わらじ」があります。このあたりでは、昔から地域や旅人の無事を祈ってわらじを奉納するなわらじがありました。大正初期から、現在のように大きなわらじを奉納するようになりました。

大わらじの保存会
「南谷戸和楽路会」
根本さんのお話



保存会では3～4年に一度、大わらじをつくりかけ替えています。大わらじは全長3.5m、両足で200Kgもあるんですよ。昔は地域に田んぼがたくさんあったけど、今はわらを集めるのも大変！大わらじを次の時代につないでいくために活動しています。

ぜんべん
全編はこちら



3 大調査！ まつり × 歴史 戸塚歳時記

音頭に合わせて
7色のお札が
まかれているよ！



■ 八坂神社のお札まき

毎年7月14日に開催される「お札まき」では、女装した男性たちが歌いながらまちを練り歩き、厄除けのお札をまきます。

江戸時代中期から300年以上続くお祭りです。

一説によると、
子どもが病気に
かからないよう
はやおやみずかきもの
母親が自らの着物を
踊り手に託した
ことが由来だよ。



横浜市史資料室所蔵資料



とつかオトコレクション

▲八坂神社祭礼の様子（1963年）

▲近年のお札まきの様子

お札まきの音頭取りを 40年間務めた 神崎さんのお話



お札まき当日は「お札まき連中」約15名で2時間ほどかけて町内を練り歩きます。「サアこい子ども！」で始まる音頭は時代によって少しずつ変わりながら、ずっと歌い継がれてきたのでしょうか。お祭りは地域のつながりあっているものです。私も40年間務めた「音頭取り」の大役を次の世代に引き継ぐことができ、ほっとしています。



提供：神崎征美さん
▲お札まきの「音頭取り」



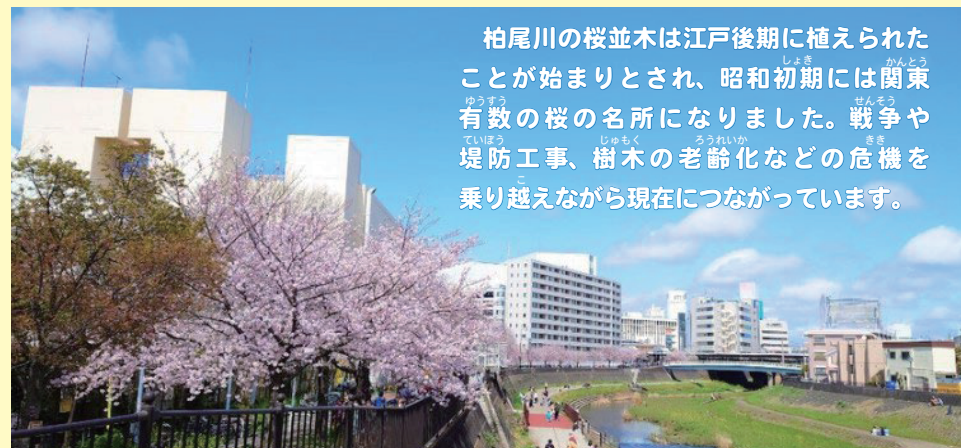
提供：神崎征美さん
▲戦前のお札まきの様子



全編はこちら

4 大調査！ 水辺 × 歴史 柏尾川の桜並木 ～時を超えた景色、未来へつなぐ

柏尾川の桜並木は江戸後期に植えられたことが始まりとされ、昭和初期には関東有数の桜の名所になりました。戦争や堤防工事、樹木の老齢化などの危機を乗り越えながら現在につながっています。



横浜市中央図書館所蔵

▲古絵葉書になっている柏尾川の桜



▲昭和初期の舟遊びの様子



▲柏尾川の氾濫（戸塚小学校前・昭和50年代）



昔から戸塚の
シンボルなんだね

みんなに親しまれてきた柏尾川は、
氾濫も多い川だったよ



戸塚区制60周年を記念し、区の花「桜」を制定しました。デザインマークは柏尾川沿いの桜を表しています。



桜並木を未来に
つなぐ取組を
すすめていきます。

柏尾川桜並木保全・再生事業 ▶



5 大調査！ みどり × 歴史

緑豊かな戸塚の原風景

こやと
小谷戸

おもてやと
面谷戸

やとやべ
谷戸矢部

などなど



戸塚区には、自治会・町内会、公園、バス停などの名前に「やと」という言葉がついているところがあるね。「やと」って何だろう？



横浜市中央図書館所蔵

「谷戸」とは、コの字型の丘に囲まれた地形のことです。戸塚区は柏尾川の流域に位置していて、柏尾川に集まる支流のひとつひとつに谷戸が形成されています。江戸時代の浮世絵にも谷戸の姿が描かれています。

◀五十三次名所図会 六 戸塚
山道より不二眺望 広重（初代）

▼舞岡公園内の丘に囲まれた
谷戸の地形と農業風景

こやと
小谷戸の里の古民家▼
（舞岡公園）



とつかフォト
コレクション



とつかフォト
コレクション

昔は多くの農地が広がり、野菜や米などを作っていました。

しかし、宅地開発や高速道路による物流の発達などを背景に農業も変化し、現在は野菜や果物や花、畜産などが盛んです。



横浜のブランド梨「浜なし」も
つくられています

6 大調査！ 産業 × 歴史

戸塚のものづくりの歴史



背景地図：横浜市三千分一地形図（市史資料室）
横浜市地形図複製承認番号 第6建都計第 0119号

▲戸塚駅周辺の工場や変電所（1946（昭和21）年）

戸塚変電所に多くの送電線が集まっているね。

横浜市は戸塚の工場地帯を「工業集積地域」というものに指定していて、現在も大きな工場や研究所が集まっています。

変電所がそばにあったことも工場の
立地に有利だったと言われているよ。

1930年代になると戸塚に工場がたくさんつくられました。第2次世界大戦中は、戦争に必要なものの生産が拡大し、京浜工業地帯だけでは土地が足りなくなったため、川沿いに開けた土地があった戸塚にも工場が増えました。



▲名瀬町付近の航空写真に写る農地と工場
（1950年代）

戸塚の歴史を研究している有馬さんのお話

全編はこちら



柏尾川周辺の工業地帯は、多くの人が働いていて、にぎわっていました。料亭で宴会をやっていたり、柏尾川に船を浮かべて楽しんだりしていたこともあったようです。

戦後、京浜工業地帯が復活して人口が増えると戸塚区や泉区の辺りは、中心部への野菜などの供給基地になりました。農家は、屋間に収穫した大根を、夕方取り入れて、夜中から明け方まできれいにし箱づめして、朝は市場に持って行くというように忙しい生活でした。

ちょっと昔の 戸塚のおはなし

現在まで続く戸塚の歴史。
身近な地域にも、今では想像できないような
歴史やエピソードがあるかも。

戸塚駅周辺のうつりかわり

今では多くの人が利用する戸塚駅
ですが、現在の姿になるまでに長い
時間がかかりました。

1887
明治 20

戸塚駅開業

人力車が
写っているね！

古絵葉書に写る
明治・大正時代の
戸塚駅西口



横浜市中央図書館所蔵

1937
昭和 12

戸塚駅
東口開設



提供：坂本写真
▲昭和 30 年代の戸塚駅東口



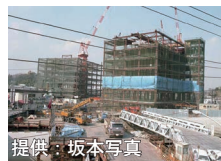
横浜市史料室所蔵資料
▲昭和 30 年代の戸塚駅西口

1969
昭和 44

戸塚駅
橋上駅完成



▲市営地下鉄開通の時の様子



提供：坂本写真
▲建設中の東口のビル

1987
昭和 62

市営地下鉄
戸塚駅開業

現在、東口にあるビルや歩行者デッキは
地下鉄と同時に建てられました。



▲現在の戸塚駅西口



▲現在の戸塚駅東口

2010 年代、戸塚区総合庁舎
や周辺の歩行者デッキが
できて、西口は現在の姿に
なりました。



提供：坂本写真
▲橋上駅になる前の戸塚駅西口



とつかフォトコレクション
▲1965 年当時の戸塚大踏切



提供：坂本写真
▲昔の大踏切（年代不詳）



▲戸塚大踏切デッキ（2014 年開通）



▲アンダーパス（2015 年開通）

短い時には1時間のうち3分しか
踏切が開かなかったらしいよ



「開かずの踏切」があるためにできた道路があるの？

当時の吉田茂首相は、大磯から東京に通勤
する際、大踏切の渋滞に業を煮やし、バイ
パス道路を作らせたといわれています。
この道路は、吉田元首相のニックネーム
「ワンマン宰相」にちなんで「ワンマン道路」
とも呼ばれています。

通称：ワンマン道路
(現・国道 1 号バイパス)



戸塚大踏切のそばで
暮らしていた
岡田さんのお話



全編はこちら

小学生の頃に吉田茂元首相
の車が大踏切で待たされて
いるのを見かけました。
その 4～5 年後にいわゆる
ワンマン道路ができたかな。
この道路ができるまでは、
箱根駅伝は大踏切の辺りで
タスキをつないでいたよ。



提供：坂本写真

▲大踏切を通っていたころの
箱根駅伝の戸塚でのタスキのリレー

戸塚駅西口の開発

戦後の戸塚駅周辺には、多くの店が連なる商店街が発展しました。一方で、交通などの問題も生じたため、駅の東口と西口それぞれで再開発などが行われました。1962（昭和 37）年から始まった新しいまちづくりは、約 50 年かけて完成し、今の戸塚駅西口の姿になりました。

戸塚駅西口の旭町通商店街（1986 年）▶



横浜市史資料室所蔵資料

戸塚駅西口のうつりかわりをみてきた湯川さんのお話



私は戸塚町生まれ、戸塚小学校出身です。再開発頃から旭町通商店会の理事長も務めました。戸塚が好きだから、これからもまちを盛り上げていきたいです。



全編はこちら

戸塚郵便局の向かい、今はマンションが建っているところに当時はバスセンターがありました。



▲戸塚郵便局前にあったバスセンター

▲2025 年

子どもの頃は今のフォーラムの辺りが全部田んぼで、よくザリガニを取りました。



▲戸塚駅南方面（1964 年）

▲ホームが橋の上まで伸びた現在（2025 年）

今の姿になる前の商店街は景気も良く、商店街のくじの景品が「海外旅行」なんてこともありました。



出典：国土地理院

▲1967 年の航空写真

提供：坂本写真

戸塚に競馬場があった!?

1933（昭和 8）年、吉田町（現在の日立製作所横浜事業所と東戸塚小学校）に、大船競馬場が移転してきました。戦後、吉田町から汲沢町（現在の汲沢団地）に移りました。1950（昭和 25）年には川崎に移転しました。



提供：坂本写真

▲競馬場帰りの人でにぎわう戸塚駅東口（昭和 14~15 年頃）



提供：坂本写真

▲競馬場で牛の品評会開催（汲沢町・昭和 10 年代後半）



▲川崎市に移転した戸塚競馬場で開催された「戸塚競馬」のポスター



出典：国土地理院



出典：国土地理院

川崎競馬では、いまでも「戸塚記念」というレースが開催されているよ



現在の汲沢団地の形が昔の競馬場の走路の形と似ているね



ちいき 地域みんなでつくった

ひがしとつかえき 東戸塚駅

東戸塚駅周辺は、もともと田畑や森林が広がっている地域でした。地元の悲願により1980（昭和55）年に東戸塚駅が誕生し、駅周辺のまちづくりが進められ、現在のように便利な地域になりました。



今も同じ形の建物があるよ！



東戸塚駅▼

1985年



▲東戸塚駅開業記念の切符（提供：常盤欣二さん）



東戸塚駅▼

2025年

▲駅西口方面から望む東戸塚の変化

駅を作る呼びかけでは、10万5千人の署名が集まったと言われているよ。民間の会社も駅を作る場所やお金を支援したんだって。まさに「みんなでつくった駅」だね！



東戸塚駅周辺の うつりかわりを見てきた 常盤さんのお話



全編はこちら

東戸塚駅の開業は、地域住民の要望と企業の貢献により実現したものでした。現在の東戸塚駅のあたりには、大正時代は「武蔵駅」という駅を設置する話もあったようです。もともとは畑や田んぼばかりの地域で、夜は蛍をかき分けて歩くほどでした。

ゆめ 戸塚にあった夢の楽園ドリームランド

東京オリンピックが開催された1964（昭和39）年、遊園地「ドリームランド」が開園しました。当時はホテルやプール、ボウリング場、テニスコートなどもありました。



▲ドリームランドとドリームハイツの航空写真

1970年代に敷地の一部が売却されて分譲住宅「ドリームハイツ」ができました。2002（平成14）年に惜しまれながら閉園したドリームランドがあった場所には、現在、横浜薬科大学と市立俣野公園、市営墓場があります。シンボリックなタワーだったホテルエンパイアは、今も大学の図書館として使われています。



横浜市史資料室所蔵資料

りんせつ 遊園地に隣接してつくられた 「ドリームハイツ」に お住まいの 島津さんのお話



全編はこちら

ドリームハイツに住み始めた当時、遊園地はまだ営業していました。息子はドリームランドのプールによく遊びにっていましたよ。その頃は、遊園地跡地ということもあって、八百屋さんや魚屋さんなどの買い物できるお店はありませんでした。もともと大人数で暮らす世帯が多かったのですが、今ではひとり世帯も増え、福祉の充実した住みやすいまちになりました。